

平成 30 年度 法人事業報告

平成 30 年度は、3 年ごと改定される障害者総合支援法の下 障害者福祉施策が大きく変わった年度でした。その中でも取分け障害福祉サービス等の報酬が今までになかった基準で設定されたことは、花工房福祉会にとっては大きな誤算でした。メリハリのある報酬単価をという事でしたので期待を寄せていましたが結果的には、日中活動支援事業（生活介護・就労継続支援 B 型・就労移行支援）がことごとく 29 年度実績を下回る単価となり減額の中事業運営をする事になりましたが、職員・利用者は法人理念「共に生き・共にくらす」の下精一、杯頑張ってきました。

重点の推進状況

1、 人材育成・労務管理

近年、育ててきた職員が年度末に多数退職する現状を少しでも改善できればと次のことを実施してきました。

- ① 毎週水曜日を G 単位・または全体で「今の課題・疑問」を出し合い少人数で自由に発言する場を設けた。
- ② 施設内研修で、講師を招き「仲間と共働できる仕組みづくり」の講演をしていただいた。
- ③ 勤務時間の中で仕事を終わらせる努力の一つとして、G 長が仕事の割り振りを担当職員にして皆で G を支える気運をつくった。

2、 経営の安定化

報酬改定による減額予算の中で事業を推進していくことを、年度の最初に事務長から、全職員に具体的な数字をもとに話をしてもらい、実態を理解してもらうことから始めた。

- ① 利用者確保に力を入れた。欠勤気味の利用者には個別的に話をし、半日の出勤を促した。又、欠員のところは利用者増に努める工夫をしてもらった。
- ② 経費削減の所では、原材料の見直し・事業推進に無駄なところがないかの点検・他 G との効率よい連携等を考え実行した。

3、 共同生活援助住宅

29 年度、長野市の審査が通り、国の審査待ちで迎えた 30 年度でしたが、国が GH への補助金の使途を変更したため、結果的には 3 棟目の共同生活援助住宅への補助金はいただけずに、実行に移すことはかないませんでした。引き続き要望していく予定です。

1、 理事会・評議員会及び監査の開催

(1) 監査

期 日 平成 30 年 5 月 22 日 (火)

場 所 花工房エコーンファミリー事務所

監査事項 平成 29 年度の事業執行状況及び財産状況について、関係帳簿及び証拠書類の照合監査を受ける。いずれも適正であることが認められました。

(2) 第 1 回 理事会

期 日 平成 30 年 5 月 23 日 (水) 午前 10 時～

場 所 花工房エコーンファミリー 2 階会議室

議 題 第 1 号議案 平成 29 年度事業報告 (案)

第 2 号議案 平成 29 年度収支決算報告 (案)

監査報告

第 3 号議案 法人現況報告

(3) 第 1 回 評議員会

期 日 平成 30 年 6 月 19 日 (火) 午前 10 時～

場 所 花工房エコーンファミリー 2 階会議室

議 題 第 1 号議案 平成 29 年度事業報告 (案)

第 2 号議案 平成 29 年度収支決算報告(案)

監査報告

第 3 号議案 理事の選任について

(4) 第 2 回 理事会

期 日 平成 30 年 6 月 20 日 (水) 午前 10 時～

場 所 花工房エコーンファミリー 2 階会議室

議 題 第 1 号議案 理事長の選任について

第 2 号議案 法人現況報告

第 3 号議案 所長の選任について

(5) 第 3 回 理事会

期 日 平成 30 年 12 月 13 日 (木) 午前 10 時～

場 所 花工房エコーンファミリー 2 階会議室

議 題 第 1 号議案 補正予算について

報 告 ① 法人現況報告

② 長野市指導監査報告

(6) 第4回 理事会

期 日 平成31年3月27日(水) 午前10時～

場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室

議 題 第1号議案 平成30年度補正予算(案)について

第2号議案 所長の選任について

第3号議案 平成31年度事業計画(案)について

第4号議案 平成31年度収支予算(案)について

第5号議案 就業規則(正規職員・嘱託職員等)の一部改正 (案)
について

第6号議案 給与規程の一部改正(案)について

第7号議案 工賃支給規定の一部改正(案)について

報 告 ① 法人現況報告

② 平成31年度送迎について

③ 長野市指導監査報告(GH)について

(7) 第2回 評議員会

期 日 平成31年3月27日(水) 午後1時～

場 所 エコーンファミリー今井事業所作業室

報告事項 (1) 平成30年度補正予算について

(2) 所長の選任について

(3) 平成31年度送迎対応について

(4) 平成31年度事業計画について

(5) 平成31年度収支予算について

(6) 就業規則(正規職員・嘱託職員等)の一部改正について

(7) 給与規程の一部改正について

(8) 工賃支給規定の一部改正について

(9) 長野市指導監査報告(わくワーク・炭房ゆるくら・GH
短期入所)

2、職員・利用者の動向(平成31年3月末現在)

職員数 76人(正規16人・嘱託14人・パート46人)

採用 11人(嘱託5人・パート6人)

退職 11人(正規4人・嘱託2人・パート5人)

利用者 103人(男性67人・女性36人)

入所 5人(男性3人・女性2人)

退所 1人(男性 一般就労)

3、事業内容

(管理部門)

- ① 健康管理・健康診断 健康づくり事業団の協力で4月23日・
24日と11月26日～12月20日の間に実施
歯科検診 5月21日に宮本歯科医の協力で実施
- ② 食事提供 提供日数 240食
川中島 一富士フードサービスに事業委託
一食530円(食事提供加算で実費300円徴収)
朝陽 弁当持参
わくワーク 宝来 3種類の中から選択
炭房ゆるくら デリークック千曲 4種類の中から選択
- ③ 家庭との連携 誕生月の支援会議を実施
エコーンつうしん 年3回発行
連絡ノートの活用
家族会に参加
- ④ 苦情対応 商品への苦情
1件 アレルギー表示の欠落の販売
2件 賞味期限切れ商品の販売
- ⑤ 権利擁護・虐待防止
利用者への言葉遣いで、聞く人によっては虐待ととれる案 件が発
生した。全職員で虐待とはについて研修をおこなった。
- ⑥ 防災安全 車の保有台数も増え、又多くの職員が運転をする機会が
増えた関係で、車の破損トラブルが急増した。
一方、利用者間のトラブルでの怪我・外出中の転倒による怪我也数件見られた。原因をしっかりと究明して繰り返
えさないよう、話し合った。
避難訓練は年2回各事業所単位で行った。
- ⑦ 人材育成 福祉サービスは、人を相手に人が行う対人サービスなの
で、職員の質の向上に努めなくてはならない中、年々応募
者も減少し、平成30年度は初めて正規職員確保ができませんでした。
そんなの実態の中でも、勤務年数・携わる事業内容・担っ
ている立場による研修を実施して来ました。
新入職員集中研修・職員会議(毎週)エコプロ会議
等の定例の施設内研修に加え、施設外の研修にも、積極的に
参加を促し知識・技能を身に着け経験を積んでいただき
ました。

- ⑧ 地域交流 地域に開かれた事業所として、地域の社会資源としての機能を備えた事業所を目指してきました。
- 交流 川中島地区民生児童委員・川田小4年生・川中島小6年生
信大附属中2年生・川中島中福祉委員
- 実習 長野大学生・社会福祉専門学校生・長養生・稻養生
長野市立長野高校生・川中生・篠ノ井東中生・広徳中生
附属中生・附属養護学校生
- 視察 足利市社協施設代表者協議会・長野市民生委員児童委員障害者福祉部会・特別支援学校保護者・月刊福祉取材

(事業部門)

- ① 日中活動支援事業
多機能型事業所 エコーンファミリー (川中島・今井・朝陽)
生活介護・就労移行支援・就労継続支援B型
就労継続支援B型 わくワーク (三輪)・炭房ゆるくら (篠ノ井)
- ② 共同生活援助事業 「さんふれんず」・「さくら」
- ③ 短期入所事業 「ゆうゆう」
- ④ タイムケア事業
- ⑤ 相談支援事業
- ①～⑤までは、別紙にて報告

多機能型事業所エコーンファミリー事業報告

1 方針

障がい者が地域の中で自立した生活が送れるよう「はたらく」「くらす」を支援する事業所としての役割を、職員一同が自覚し法人理念「ともに生きともに暮らす」を目標に日々実践をして参りました。

利用者一人ひとりが、元気に通って来られる「居場所」としての事業所の役割は、健康管理を最優先として支援を徹底して参りました。その成果として、90%以上の出勤率を確保できた利用者が7割以上おりました。

一方、障がい特性を活かして頑張る「活動の場」「出番」においては、職場開拓を積極的に行ない、また今まで行ってきた仕事においても、作業工程を見直し、仕事の選択肢を増やすことで、利用者一人ひとりの得意な仕事、やってみたい仕事、できる仕事など、適正に応じた配置をして技能を高め、やりがいを見出していきました。これらは、個別支援計画にもしっかりと反映され、短期・長期にわたり目標を持って活動が進められていきました。

また、地域に支えられた事業所であることも忘れずに、障がい者理解を深めていただくために地域と連携した活動・販売等実践して参りました。積極的に地域の方々とふれあい場を設けたりしながら日々の活動を推進して来しました。

2 重点目標

サービスの質の向上については、利用者一人ひとりが安心して日常の活動が遅れるよう努めて参りました。安全に配慮した環境（職員配置・場所）を作り、利用者の特性、個々のニーズに配慮した活動・作業支援を行なって参りました。

また、事業内容の見える化（マニュアル作成）、役割の分散化（複数責任者の配置）などを行ない、事業の安定化と効率化を図って参りました。

民生児童委員、サポーターとの交流を行ない、施設見学・実習・ボランティアを積極的に受け入れるなど、障がい者の理解推進にも努めました。

事業を推進する上で、職員のスキルアップは不可欠であるため、経験年数、職責に応じた外部研修へ計画的に参加をし、内部研修ではグループディスカッションを実施し、職員一人ひとりが発言できる場を設けて、共に学ぶ場を作るなど、スキルアップに努めました。

3 事業内容

職員・利用者数（平成31年3月末現在）

職員数 51人（正規15人・嘱託9人・パート27人）

採用 女性7人（正規2人・嘱託1人・4人）

退職 男性3人（正規2人・パート1人）

女性5人（正規3人・嘱託1人・パート1人）

利用者数 65人（男性39人・女性26人）

入所者 2人（男性2人）

退所者 3人（男性2人・女性1名 一般就労1名・その他2名）

4 日中活動支援

(1) 生活介護事業 20人（23人）

(2) 就労継続支援B型事業 30人（37人）

(3) 就労移行支援事業 10人（5人）

各事業の事業報告は、別紙による

5 余暇活動支援

1日レク 今年度から各Gが企画して行う

ハーモニー夢まつり 10月27日

土曜活動 年28回行う

水泳教室 年23回

音楽療法 年24回

6 工賃支給

	平成29年度	平成30年度
売上総額	55,333,009円	54,298,549円
工賃支払総額	22,361,750円	21,818,700円
平均工賃額（月額）	29,579円（63人）	27,784円（67人）
就労継続B型（月額）	38,789円（33人）	35,201円（37人）

生活介護（Aグループ）事業報告

1. 重点目標

- ① 作業や活動を通して、地域交流・障がい者理解の推進を実践する。
- ② 家庭と連携を図り、利用者一人ひとりの健康や特性に留意し、個々の意思を尊重した生活習慣の支援。安全を最優先とし、安心して過ごせる環境を整える。

2. 利用者・職員数（平成31年3月末日現在）

利用者数 10名（生活介護 10名）

職員数 7名（サービス管理責任者1名／生活支援員6名／看護師1名）

3. 事業成果

- 生活全般支援／健康管理、食事、更衣、排泄等
- 配達・販売／パン・おたっしや豆腐・花等の配達、販売
- 回収作業／牛乳パック・古紙・アルミ缶の回収、分別
- 施設内活動／小物作り・音楽療法・ダンス教室・料理体験・花壇作り
季節行事・誕生日会・アート活動
- 施設外活動／水泳教室・バス外出・カシス・ブルーベリー畑の管理 など
- 地域ボランティアの協力による活動／レク外出時の付添い、
夢まつりの運営・付添い、絵本を読む会
- 交流 等／川中島地区民生児童委員・川中島中学校福祉委員会・職場体験実習
受入・夢まつり
- 外出レク活動
 - ◎ 1日レクリエーション：
いちご狩り(5月)、チロルの森(6月／AB合同)、木島平やまびこの丘公園(10月)、安曇野方面(11月)、上田 海野宿散策(3月)
 - ◎ 半日レクリエーション：
お花見外出(4月)、小川村郷土歴史館でカフェ(7月)、プールへ行こう(8月)、小布施 ハウエイオアシス散策(8月)、クリスマス会(12月／AB合同)、カラオケ新年会(1月)、須坂人形博物館(2月)、ナイスハートバザール参加(2月)、
まよめの会（家族参加有り）(3月)

4. 売上結果 【 総売り上げ目標：1,450,000円 実績：1,561,991円 】

① 小物部門

（小物・カシス・ブルーベリー、糸コシ、スープ等の売上分）

目標：1,350,000円 実績：1,116,361円

② 受託小物部門

(パ〇ン受託配達、ワゴンカフェ コーヒー代、資源回収・モニター・自動販売機手数料、他)
目標：100,000 円 実績：445,630 円

1. 重点目標

- ① 移動販売の新規開拓、畑作業（大豆、野菜）の充実を目指す。
- ② 利用者一人一人の社会性、能力に応じた適材適所の作業配置の取組み、それに伴った職員配置をする。

2. 利用者、職員数

利用者 12 名（生活介護 12 名）

職員数 12 名（内 サービス管理責任者 1 名 生活支援員 9 名
職業指導員 1 名 看護師 1 名）

3. 事業成果

- ① 豆富に関しては移動販売車が稼働したこともあり、前年比で売上大幅増となった。ルート販売等で地域の企業等販売先の新規開拓も行なった。
- ② 麺類は、昨年と比べると仕入れた数も減少し、売上も減少してしまった。仕入れのタイミングが必要な時とずれてしまっていたのが大きな要因。
- ③ 受託は、以前行なっていたポスティングが今年度は出る回数が大幅に減ってしまい、売上減となっている。販売等が増えたのが一番の要因で、トータルの売上は前年比大幅増となっている。

4. 売上結果

豆富：目標：¥6,700,000	結果：¥7,300,699
麺類：目標：¥325,000	結果：¥252,112
野菜：目標：¥25,000	結果：¥33,650
受託：目標：¥35,109	結果：¥83,000

合計 ¥7,621,570

1. 事業方針

① 事業内容での重点

施設外就労、職場実習を中心に、企業で「働く」機会を多く提供し、就労支援を推進する。

② 利用者支援に関わる重点

就労に向け意欲を持って作業、必要な訓練に取り組めるよう、個別支援計画に沿って利用者一人ひとりの特性、強みが活かされる作業、必要な訓練、作業工程の工夫を図り支援する。同時にご家族に対しても就労が適性であることを伝え理解をいただく。

2. 利用者・職員数（平成31年3月末日現在）

利用者：定員 10名 現員 5名

職員数：サービス管理責任者 1名

就労支援員 1名

職業指導員 2名

生活支援員 1

3. 事業成果

① 施設外就労を中心に、企業で「働く」機会を提供することで、個々のスキルアップにつながった。

○施設外就労先 8件（内新規4件 ビックメイク・福田青果
・サンマリーンながの・ヤマト運輸）

② 個別支援計画に基づき、利用者一人ひとりの特性、強みが活かせる作業への配置、作業工程が分かりやすくなるように手順書の見える化をするなどの支援を行った。また、それぞれの課題も明確にして本人、家族と共有し課題克服できるよう支援を行った。

○就労アセスメント：4件

○就労学習会：月2～3回実施（就労継続B型利用の希望者も参加）

○職場見学：（7月31日）テンポスバスターズ 2名見学

○就職面接：3社 延べ3名受ける

○就職者のフォローアップ支援：9名 適時

4. 実績

就職者 1名

1、 重点目標

- ① パンとスイーツの売り上げは利用者の工賃に繋がることを忘れず、日々商品開発と売上を考える。
- ② 「働きたい」の思いを支援し、「役に立つ」「必要とされる」「出来た」ことの喜びを利用者さんと職員が共有できる支援を行い、職員が行っている作業は、いつか利用者さんも行えるように技術向上を図る。

2、利用者、職員数（平成31年3月末日現在）

利用者 7名（内 継続B型 7名）

職員数 7名（内 職業指導員 2名 生活支援員 5名）

3、 事業成果

① パン、スイーツ製造、販売

新作パンをグループ全体で考え製造し販売した。ポップ等売り方も販売員の意見を参考にしながら作成し売り上げに繋がった。

② ビオクラ食養からの受託スイーツ製造

ビオクラ食養の受注が減ってしまい売上が減ってしまった。

③ ヌーベルエンタープライズからの受託スイーツ製造

プランニングエメからの注文は在庫の関係でなくなってしまい、スコーンの売上はなくなってしまった。

④利用者の技術向上

利用者の得意な分野を見つけ、作業に取り入れるようにした。進んで作業に取り組む姿勢が見られ、職員の作業を他に配置することができた。

4、 売り上げ目標

売り上げ結果

① 2,300,000円

① 23,519,647円

② 9,200,000円

② 6,448,502円

③ 500,000円

③ 545,265円

総売り上げ目標30,513,414円（ゆるくら、わくワーク含む）

1. 重点目標

- (1) 本館・別館での2グループ制での作業体制を確立する。
- (2) 利用者の様子や業務に関する情報共有の徹底をする。
- (3) 販売・受託等作業の見直しを行い、効率よく作業を行う。
- (4) リヤカー販売やメール便などを通じて地域の方々と積極的に関わり、常に感謝の気持ちを持てるようにする。

2. 利用者・職員数（平成31年3月末日時点）

利用者 34名（内 継続B型 30名 就労移行 4名）

職員数 12名（内 サービス管理責任者1名（兼任） 就労移行支援員1名 職業指導員6名 生活支援員3名 目標工賃達成指導員1名）

3. 事業成果

- (1) 花部門は、昨年度より施設外就労等に出掛けることが増えた為、販売へ行く回数が減り売上が昨年より減少している。
昨年からは開始したコヤマや長野印刷商工等の植栽は引き続き行った。
- (2) 受託では新規作業（福田青果）が増え、目標比にして大幅増となっている。
施設外就労では福田青果のように少人数で行う作業もあり、大勢人がいる環境が苦手な利用者も活躍できる場ができ、利用者が活躍できる場が広がっている。
- (3) 昨年度から、本館・別館という形にわかれ2グループ制で日々過ごしているが、人数が分散したことで利用者同士に起因するトラブルも減少し、日々落ち着いて過ごせるようになってきている。

4. 売上結果

- ・受託、施設外就労部門 売上目標 3,600,000円 売上結果 6,789,344円
- ・花部門 売上目標 6,400,000円 売上結果 5,277,404円
- ・計 12,066,748円

朝陽事業所 事業報告

1. 重点目標

- ① 事業内容での重点

地域に根付いたエコーンファミリー朝陽事業所・おまめ喫茶そいていとなるよう、地域の方たちとの関わりを大切にし、集客に努める。

② 利用者支援に関わる重点

集団生活や仕事をする上で必要なマナーや礼儀を身につけられるよう、地域の方々や仲間との関わりについて重点的に支援をしていく。

2. 利用者・職員数（平成31年3月末日現在）

- ・利用者数3名（内 就労移行支援1名 就労継続支援B型1名、生活介護1名）
- ・職員数4名（内 職業指導員2名 生活支援員2名）

3. 事業成果

- ① 毎月第1木曜日の午前2時間は、朝陽地区住民自治協議会様主催の認知症オレンジカフェ、名称「まめカフェ」として喫茶を貸し出した。デザートとドリンクをご提供。喫茶にお客様が入りきれないほどご利用いただいております。「まめカフェ」として「おまめ喫茶そいてい」が周知されている。また、“喫茶貸しスペース”の宣伝に力を入れたことにより、「歌とギターの会（月1回）」の皆様や「語りべの会（不定期）」の皆様、その他会議などで喫茶貸切のご予約をいただけるようになった。お一人様ワンドリンク+デザート（500円）をお付き合いいただき、集客につながった。

休日営業；5/26・8/4・9/8・3/2を営業日として設け、土曜祝日営業限定メニューと価格でお食事をご提供した。土曜活動とのコラボも実現。

総売上（食事のみ）52,780円

- ② 充填豆腐については、初の試みとして「夏ギフト」と「冬ギフト」を企画・実施した。「夏ギフト」の目標80セット・実績；80セット 売上：75,500円
「冬ギフト」の目標80セット・実績；80セット（お醤油1本付き）売上：93,600円

目標としていたセット数をクリアすることが出来た。

- ③ ビオクラクッキーのシール貼りでは、実習時代に苦労していた新入所者の利用者さんも確実な向上が見られた。皆、とても安定して作業に取り組むことが出来た。ほっとパルのポスティング作業も、毎月定期的にお仕事をいただくことが出来、事故怪我なく安全に行うことが出来た。

4. 売上目標

売上結果

①豆腐・・・・・・・・・・・・・・・・	280万円	2,756,940円
②喫茶営業・・・・・・・・・・・・・・・・	120万円	930,670円
③ビオクラクッキー・ほっとパル、その他受託・・・	24万円	258,017円

就労継続支援B型事業所 わくワーク事業報告

1、重点目標

(1) 事業内容での重点

社会に必要とされ、役に立っていると実感できることを前提としながら、所得の保障が望める事業を実施し、高い工賃の支払を目標とする。

(2) 利用者支援に関わる重点

利用者さん一人ひとりの「その人らしさ」を踏まえながら個々のニーズを的確に汲み取り、サービス等利用計画と個別支援計画に沿って支援を行ない、「その人らしく」生きる事を支援する。

2、職員・利用者数（平成31年3月末日現在）

- ・利用者：定員20名
 ：現員19名
- ・職員：7名
 - サービス管理責任者：1名
 - 生活支援員：1名
 - 職業指導員：4名
 - 目標工賃達成指導員：1名

平成30年4月　採用1名　平成30年5月　採用1名
平成31年3月　退職2名

3、事業結果

(1)利用者さん一人ひとりが、“必要とされている、役に立っている”実感が持てるように「楠ワイナリー」「ころぼっくる」等の地域産業に寄り添った事業を積極的に取り入れた。また、こうした環境下で持てる力を十分に発揮する事ができる様“褒める支援”を心がけ、結果として褒められる喜びが誰かの何かの役に立っている実感に触れられる事や、様々な人との交流等を得て柔軟な対応力や責任感・使命感が養われた。

1、 重点目標

(1) 事業重点

- ①循環型林業による total win のモデルを形にしていく。
- ②ガーデンクリエイイト部門における施設外就労、個人庭園の樹木剪定、草刈りに力を入れ
地域機関、個人客への社会貢献と工賃向上を目指す。

(2) 利用者支援重点

- ①個別支援を中心にそれぞれの思いが形になる支援。
- ②チーム支援（施設外就労では、挨拶、身だしなみ、礼儀など習得しながら、一般企業で働く力をつける。）

2. 利用者・職員数（平成 31 年 3 月末日現在）

- ・利用者数 18 名
- ・職員数 7 名（内 サービス管理責任者 1 名、生活支援員 2 名、職業指導員 3 名
目標工賃達成指導員 1 名）

3. 事業成果

(1) ①長野県の森林づくり県民税を活用した、里山整備において、「あさかわの里山と森を守る会」に事務局として関わり、31 年度（令和元年）の認定が決まった。経費の内、指定区域で活用する経費が助成されるほか、今後 3 年から 10 年にわたって長期で活用できるものがある。長野県第一号の林福連携の事例として、新聞やテレビでも報道され、ゆるくらの目指す循環型林業が開始出来た。

②厚労省管轄の建物周辺の草刈り、エムウェーブ、榊角藤の庭管理、個人宅の草刈り、樹木の剪定作業など新規で参入できるものが増えた。

(2) ①支援計画に添って支援し、ハローワークに登録、就労適性検査を受けるためのカウンセリングを機関で実施し、それぞれのニーズに沿う支援を計画的に実施した。

②様々な施設外就労の計画を立て、実施できた。（エムウェーブ、角藤、DLD、小出きこの園、コココーラなど）

4. 売上目標・成果

30 年度	売上目標	売上結果
(総額)	10,430,000 円	11,029,325 円
薪炭事業	3,000,000 円	3,523,114 円
施設外就労	7,080,000 円	7,083,254 円
野菜（大根、白菜等）	50,000 円	50,010 円
花豆、花 その他販売	300,000 円	372,947 円

グループホーム「共同生活援助」事業報告

1. 事業方針

利用者の意志と人権を尊重し、関係法令を遵守するとともに、出来る限り居宅に近い環境の中で利用者の障害特性を理解した上で、心身の状況や意向を踏まえた食事、排泄、入浴等の生活全般の支援を行なう。

2. 利用者・職員数（平成 31 年 3 月末日現在）

<利用者>

	さんふれんず	さくら
定員	5名	6名
現員	男性 5名	女性 6名

<職員>

職種	員数	常勤		非常勤	
		専従	兼務	専従	兼務
管理者	1		1		
サービス管理責任者	1		1		
生活支援員	7	2		5	
世話人	4	2		2	
事務員	1		1		

3. 事業成果

- ① 各種生活援助サービスの提供、共同生活介護サービスの提供
- ② 体制 月～日曜（GW・お盆・年末年始休暇有） 24 時間（夜間支援体制）
→ 年間利用回数（一人平均）さんふれんず 327 回／さくら 238 回
- ③ 連絡会議 → 実施回数 年 2 回（世話人・管理者・サービス管理責任者）
内容：利用者の様子・支援について・その他業務についての連絡・確認
必要に応じてその都度行った。
- ④ 家族との懇談 → 11 月に実施・その他必要に応じて実施した。
- ⑤ 研修 → 暮らし部会（長野市ふくしネット）や地域支援部会（知障協）が開催する、管理者や世話人等を対象とする研修会へ参加した。
- ⑥ 余暇活動・地域との連携
→ エコーンファミリーでの土曜活動、レクリエーション
地区の美化活動、ゴミ集積所の当番、誕生日会（利用者の誕生日に）、
クリスマス会 など
- ⑦ 避難訓練・防災 → 第 1 回 9 月 20 日（木） PM4：30～PM5：00

第2回 3月25日(月) PM4:30~PM5:00

内容: 避難訓練・通報訓練・消火訓練(第1回: 消防署立会いのもと実施)

・1月29日(火); 自動火災報知機連動工事設置完了

健康診断 → 4月23日(月)・24日(火)(エコーンファミリーと併せて実施)

1、事業方針 在宅等において介護者の疾病やその他の理由により、短期間の入所を必要とする障害者に対し、入浴、排泄、又は食事等の介護や日常生活上の支援を提供し、障害者等及び家族の福祉の向上を図ることを目的とする。

2、利用者・職員数

・利用者30名（内 男性21名 女性9名）

長野市：27名 千曲市3名

・職員数 管理者 1名
サービス管理責任者 1名
生活支援員 2名

3、事業成果

①入浴・排泄 必要に応じて介助や見守りを実施した。

②起床・入床 起床時間（6：00～7：00）

入床時間（20：00～22：00）本人の意思を尊重し、援助した。

③脱衣 必要に応じて介助、確認した。

④整容 毎食後の歯磨き援助、介助、確認。洗面の援助、介助、見守り等、個性を尊重した適切な整容を援助した。

⑤食事 栄養と利用者の身体状況や嗜好に配慮し、バラエティーに富んだ手作りの食事を提供した。

<月別利用者数>

4月	21名	5月	24名	6月	23名
7月	24名	8月	24名	9月	26名
10月	27名	11月	27名	12月	25名
1月	26名	2月	26名	3月	24名

（*年間利用者数 延べ 297名 利用回数 594回）

（*利用回数は 1泊2日＝2回 でカウント）

1. 事業方針

障害者の日常生活の継続的な支援を図るため、家族の急な用事・都合等の理由により、障害者の在宅での介護が困難な場合において、タイムケアを実施する。

2. 利用者・職員数（平成31年3月末日現在）

管理者	1名
サービス管理責任者	1名
支援員	1名（利用状況に応じて増員）
登録人数	長野市 22名（男 13名 女 9名）
	千曲市 2名（男 1名 女 1名）
	須坂市 1名（男 1名）
	飯綱町 1名（男 1名）
	計 26名

3. 事業成果

家族の不幸等の急な都合により、在宅での介護が困難な場合に、職員体勢を整え、当施設でのタイムケアを実施した。

月別利用者数

4月	5名（36,25時間）	5月	7名（37,0時間）
6月	10名（56,0時間）	7月	9名（70,75時間）
8月	8名（39,5時間）	9月	7名（36,0時間）
10月	10名（47,5時間）	11月	9名（36,5時間）
12月	9名（50,5時間）	1月	7名（41,0時間）
2月	5名（33,25時間）	3月	7名（33,5時間）

年間延べ数

93名（517,75時間）

1、事業方針

- (1) 事業の運営に当たっては、市町村・障害福祉サービス事業所・他の関係機関等との連携を図り、地域において必要な社会資源の改善・開発に努める。
- (2) 指定特定相談支援の実施に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に当該障害者の立場に立って、支給決定障害者等に提供される障害福祉サービス等が特定の種類又は特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行なう。

2、職員数

- ・職員体制：相談支援専門員 1名

3、事業成果

- ・日常生活全般に関する相談（情報提供、連絡調整、相談等）
- ・アセスメントの実施

生活状況を把握・理解し、ニーズの把握に努めました。

- ・サービス等利用計画案の作成

特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行ないました。

- ・サービス担当者会議の開催

市町村や障害福祉サービス事業者等、関係機関との連携を図り支援会議を開催しました。学校在学者に対しては新たなサービス利用の相談や手続き等を行ないました。

- ・サービス等利用計画の作成
- ・継続的な評価「モニタリング」の実施

サービス等利用計画の作成	91 件	
	エコーン利用者	83 件
	外部利用者	8 件
モニタリングの実施	90 件	
	エコーン利用者	82 件
	外部利用者	8 件